

2023 ワンドロップスタディツアーを終えて

今回は、前回初めての参加に続き3年ぶり2度目のスタディツアーでした。初めてのワンドロップ小学校訪問はまだコロナが猛威を振るうギリギリ前。

その後、コロナにより学校はしばらく休校となり子どもたちの学習の場が奪われ、生活すらままならない状況になっていると聞き、気になってはいましたが私自身何もすることもできず、その間食糧支援などに関わってくださった方々には、本当に頭が下がる思いです。

そして今回やっと3年ぶりの参加となりました。まずは仲間に入れてくださり、2週間もの間ずっとご一緒させていただいた皆様には感謝しかありません。私も含め個性の強い皆様の集まりでしたが（笑）、毎日が大人の修学旅行のようで楽しく過ごすことができました。

昨年7月に大西さんたちが先にクミツラを訪問され、その時の状況はとてものがっかりするものだったとお伺いしていました。コロナで休校だったためなのか、それとも2年半現地の先生たちにアドバイスをする日本人が来校できなかったせいなのか、先生たちの意欲もなければ、子どもたちもすっかり大人しくなってしまったと。

そんな情報を受けての今回の来校でしたが、私にはユニホームを揃えた先生たち、グラウンドで走り回る子どもたちがこの3年間の苦境を乗り越え、元気を取り戻しているかのように見えました。

初日の来校では、1年生はきっと初めて見る外国人に恐れているのか、本当にモジモジして元気がない様子でしたが、翌日からはなんのその。運動会の練習でも一生懸命走り回り、給食の配膳では、相手に「ありがとう。」を伝える練習を。最初は知らない人と話すのは恥ずかしいですね。でもきっと、「thank you」「ドンノバード」の意味をわかってくれるのではないのでしょうか。この次、会うときには、笑顔でサンキューと言ってる姿を期待しちゃいます。

1番落ち着きのない2年生は、先生たちも担任をしたがらないほどのやんちゃぶりでした。この2年生を1列に整列させるだけでも、どれだけの労力が必要か。担任になったジャスミン先生の今後も楽しみです。

私が最初に、折り紙授業を担当したのが3年生。3年生にもなれば、簡単な折り紙くらいは出来るでしょとの考えはすぐに打ち消されました。それに生徒より不器用なのが先生です。なんてバングラデシュ人は不器用なのでしょう。でも伝えようとする私も、「ナー、ナー、ナー。（違うよ、ちゃう、ちゃうって。）」「エカネ、エカネ。（ここ、ここやで）」「バロ。（上手やん）」の三言のみをたくみに扱い伝えるだけ。それでは、教えられる方もわかるはずがないというものです。それでも子どもたちは充分に楽しんでくれていました。今度は、ちゃんとベンガル語で説明できるよう虎の巻を準備しようと思います。

4年生の中には、見覚えのある顔もチラホラと。そうです、私が前回行った時の一年生です。20人入学したはずが、12人に減ってはいました。あどけなさはそのままですが、がんばって続けてくれていました。

そして5年生。卒業式の練習では、下級生相手に少しだけお姉さんお兄さんぶって歌の見本を見せていました。ポップコーン作りでは、新聞紙に広げたポップコーンをみんなでこぞって頬張っていました。新一年生の大きめの子とそれほど身長が変わらないのが気になりますが、この村の子に限らずバングラデシュの子どもは比較的小柄なのではないでしょうか。そしてこの子たちもあと1年で卒業です。学力的にはどうなのでしょう。卒業してからの進路はどうなのでしょう。私にはそこまではわかりません。そこが私の今後の課題です。せっかく、ワンドロップ小学校に関わらせていただいたのですから、ワンドロップを卒業した子がどんな大人になるのかを考え、そのために私たちは何をすべきなのか考えたいと思います。

そして最後に、今回のスタディツアーに参加して、自分の中で3つの課題がありました。前は初めての参加でメンバーさんにお会いするのも初めて。まして教育に携わったこともない私です。どこかお客さんのつもりで参加していました。

今回の課題のひとつ目は、『自分にも出来ること、自分にしかできないことを見つけよう！』です。そこは相変わらずなんの準備も出来てないままの出発でしたが、みなさんが私の引き出しを上手に引き出してくださるので、ヨガをしたり得意分野の料理など楽しみながらすることが出来ました。

ふたつ目は、『自分の考えをちゃんと伝えよう！』です。いつも、他の人の意見を聞いてからそれに合わせるようにしか発言出来ない私ですが、今回は人の意見を聞く前に自分の言葉で伝えようと意識し、図々しいほどに発言出来たと思います。私の中ではかなりの進歩でした。

そして三つ目『ちゃんとレポートを提出しよう！』です。文章を書くのが本当に嫌いです。今、期限前にこのレポートを仕上げようとしている自分が奇跡のようです。

このように、自分の成長もできたスタディツアーでした。これからもワンドロップを通して、大好きなバングラデシュのために出来ることを考えていこうと思います。

今回関わってくださったすべてのみなさまに感謝感謝です。

陽子